



記憶の積層

岩陰のような空間の休憩所と、木陰のデッキ広場が一体となって、大きな休憩所となります。

自然史の延長線上に設計する

大度海岸にはゴロゴロとした石灰岩が転がっており、休憩所の建つ大地も石灰岩が削られてできた崖の上となっています。削られた岩の下には御嶽もあり、岩陰が日差しから身を守る場所にもなっています。そのように地形と人の営みが結びついた場所において、削られた石が精製され、再び積み上がっていき、建築物となってこの場所の歴史の一部となっていきます。数千年の時の中で形成された、この場所の歴史の延長線上にこの建築を計画します。

プリミティブ/コンストラクティブ

プリミティブは「原始的な」や「根源的な」などの意味を持ち、コンストラクティブは「構築的な」などの意味があります。別棟とすることが求められている本計画において、対比的に建築することで、休憩所とトイレ、2つの建築に関連性が生まれると考えました。

記憶の積層

プレキャストコンクリートの無垢のパーツが積み重なることでできるプリミティブな空間の休憩所と、製品として精製された穴あきブロック（花ブロック）の積み重ねによって構成されたコンストラクティブな空間のトイレ。海岸に積み上げられた石と積み重ねられたプレキャストコンクリート、穴あきブロック。積み上げられた石たちは、記憶の積み重ねとなってこの場所の歴史の一部となっていきます。



削られた岩の下の御嶽



石灰岩の広がる海岸

□配置計画

現状において、東側のピクニック広場は既存の状態です。一方、西側のエリアは雑草が茂り、ビーチからの動線も整備されておらず、整備が必要な状態となっています。これらの状況から**休憩所とトイレの計画範囲は、既存休憩所のエリアと西側のエリアが適切と考えます。**

整備計画から、既存トイレは工事中も使用できないといけません。また、新設トイレは既存側溝の位置、敷地高低差（東側が高く、西側が低い）から考えて、既存休憩所の位置が妥当と考えます。

新設の身障者用駐車場は、車の動線を考慮し、植栽帯を一部切り開き、既存トイレ横に計画します。新設のトイレからも近く利用しやすい場所でもあります。

新設の休憩所は西側のエリアに配置します。計画地にある**既存樹木は広範囲にしっかりと根を張っているため、伐採や移植は適切でない**と考えます。そのため、新設休憩所は北西側の斜面となっている部分に計画し、予算的にも面積を大きくはできないため、既存樹木の木陰を利用し、下をデッキとして休憩所の延長として利用します。

西側のエリアを新設の休憩所に包まれた木陰の広場として再整備します。

□整備計画

- ①西側スペースに新設休憩所を建築。（既存トイレ、既存休憩所利用可）
- ↓
- ②新設休憩所完成後、既存休憩所を解体し、新設トイレ建築。（新設休憩所、既存トイレ利用可）
- ↓
- ③新設トイレ完成後、既存トイレを解体し、身障者用駐車場を整備。



